

トップメッセージ

第24期 (前期: H21/6期) の総括・第25期 (今期: H22/6期) への抱負



株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと、お慶び申し上げます。
また、日頃より、ご支援ご鞭撻を賜り、深く感謝申し上げます。

第24期においては、第23期 (前々期: H20/6期) 下期より PSSグループ社員が一致団結をして推し進めてまいりました3つの事業指針が、着実な成果として現れました。その結果として、最近の世界的な不況による経済環境の悪化にもかかわらず、当社においては過去最高の売上高 (38億円) と最終損益の黒字化 (73百万円) を達成する事ができました。第25期においても、これら事業指針の徹底により着実に成果をお見せできるように事業を推進してまいります。

以下にこれら事業指針について第24期の総括と第25期への抱負を説明させていただきます。

1. 業界のブレイクスルー：新製品開発による成長モデルの確立 ⇒P3

① PSSオリジナル技術の集大成：LuBEA (Line up Beads Assay) システム

PSSが目指しているのは、医療を中心とした*in vitro* (体外診断) 市場において、圧倒的なコストパフォーマンスを実現する自動化システムを世界中に上市する事です。その実現の為に研究開発中のLuBEAシステムは、この度NEDOの委託研究事業として継続採択され「特定食物アレルギーの迅速・簡易定量システム」の実用化に向けた開発を行っています。また同じコンセプトに基づき、遺伝子解析用小型汎用システムとして、Mag AmpliStand (仮称) の開発に取り組んでいます。これはパンデミックが懸念される新型インフルエンザウイルス検査への応用も視野に入れたもので、迅速、深長に作業を進めております。

② 研究開発テーマの選択と集中

*in vitro*市場への早期上市による新規事業の確立を図る為に、LuBEA型システムを軸として、研究開発テーマの一層の絞込みを行いました。そしてPSSの強みである、オリジナルハードウェア技術を切り口としたシステムインテグレーションのノウハウを生かすために、その組織機能を100%子会社であるユニバーサル・バイオ・リサーチ (UBR) 社に移管して、PSSの研究開発活動を集約する事に致しました。今後はできる限り各分野の専門化集団と組む事により更なる研究開発活動の効率化を図り、迅速な新製品の上市を目指します。

2. 既存事業の収益力強化：売上総利益の改善 ⇒P4

売上の柱であるDNA自動抽出装置は、ロシュグループ・キアゲングループのバージョンアップ製品を中心に順調に売上を拡大しています。本装置は、ウイルス検査の前処理 (ウイルスRNAの抽出) に適合するため世界的に需要が拡大しており、世界経済の不況と円高による向い風があったにもかかわらず、前期の増収増益に多大な貢献をする事となりました。今期においてもこの状況は変わらずPSSの技術・製品は多くの施設において採用され、有効利用されていくものと考えています。またセルフリースサイエンス社と自動タンパク合成装置の製造委託契約締結により、今期の量産販売による売上貢献を視野に入れていきます。

そして前期から推し進めている円高対応策として、OEM取引先と為替リスク調整と円高を生かした購買による原価低減を行いました。今期においても引き続き、品質改善と原価コストダウンを視野に入れた活動を行ってまいります。

3. 販売費及び一般管理費 (販売管理費) 削減：最終損益黒字化 ⇒P5

PSSグループ社員が一致団結をした経費削減策と予算管理の厳格化により、通期においては対前期比328百万円減、対予算比133百万円減のコスト削減を達成する事ができました。今期においても、引き続きこの経費削減努力を全社員一致団結して行います。

最後に

今期においては、ご説明致しました3つの事業指針に基づいた施策を徹底して更に効率的に行うために、組織改革を期初に行いました。

株主の皆様のご期待に応える成果をお見せできるように事業を推進してまいりますので、引き続きご支援のほどを何卒宜しくお願い申し上げます。

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
代表取締役社長

